

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0472100056
法人名	(医) 山水会
事業所名	グループホーム 蔵王ユートピア
所在地 (電話番号)	宮城県刈田郡蔵王町遠刈田温泉字八山4番18 (電 話) 0224-34-1177

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成21年3月24日

## 【情報提供票より】(平成 21年 2月24日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成12年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.20人

### (2) 建物概要

建物形態	併設/単独○	○新築/改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建て	1 階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,500 円	光熱水費(実費、月額)	夏期11千円、冬期21千円
敷 金	有( 円)	無○	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000円

### (4) 利用者の概要(02月24日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.7 歳	最低	73 歳	最高	89 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	国民健康保険蔵王病院、さたけ整形外科、大泉記念病院、村上歯科
---------	--------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

設立運営法人「医療法人社団山水会」の主要な介護施設は、指定介護老人保健施設「遠刈田温泉山水苑」(老健施設、通所介護事業を併設)で、グループホームと一体的に運営している。老健施設の医師をはじめ、看護師、作業療法士、理学療法士、管理栄養士などの専門職から、指導・助言及び技能の提供があり、ホームの看護師との協働によるサービスを入居者一人ひとりに合わせて提供している。ホームは遠刈田温泉の個人別荘地の奥まった山腹にあり、コミュニティー意識が希薄な土地柄ではあるが、入居者の地域行事への参加、毎月1回の外出行事、多目的ホールの利用などによって、地域社会との融合が進んでいる。昨年発生した法人理事長らによる不適切な運営が、運営推進会議の開催、職員の適正な配置と研修機会の確保、災害対策などに悪影響を及ぼしていたが、職員の懸命な努力によって従前の介護サービスの質の水準を取り戻しつつある。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ①地域密着型サービスとしての理念(ホームの独自の理念を作り上げているが、「地域密着型サービス」の意義をふまえたものにはなっていない。次年度に向けて再度の見直しを期待する)。②市町村との連携(連携はまだ薄いが、町との協働による介護教室の開催などに意欲を持っており、町からの働きかけも必要である)。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) サービス評価の意義とねらいを職員間で話し合っているの、すべての職員がそれを理解している。今回の自己評価では、すべての職員に自己評価票を渡して記入してもらい、それを持ち寄って話し合い、介護支援専門員がとりまとめ、さらに職員に還元している。見いだされた課題は、改善計画を立てて実行している。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議は昨年5月に発足以降2か月ごとの開催を目指して来たが、結果的に2回目は本年1月23日の開催になった。3回目は3月27日に予定している。会議は、ホームからの事業の報告や施策の提起と参加者からの意見や要望の聴取により、双方向的に運営している。評価機関や行政監査の評価(監査)結果も報告し、そのための改善策も提起している。町との連携は薄いが、町との協力による介護教室の開催などに意欲があり、この6月には中学生の職場体験学習を受け入れることにしている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族が来訪した時には声をかけ、必ず入居者の状況を伝えるとともに、入居者のことについて話し合っている。また、毎月1回は広報紙『蔵王ユートピア便り』を同封した手紙を送り状況を伝え、意見や要望を聞いている。家族の苦情などを運営推進会議で報告し原因や要因を探り、意見を交換してサービスの質の向上に活かしている。入居者の金銭管理方法を家族と取り決め、毎月書面で収支状況を報告している。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームは、地域社会の長寿会に加入しており、さらに自治会への加入を申し込んでいる。入居者が長寿会の行事や地域主催の敬老会などに参加したり、近在の住民が法人主催の合同夏祭に参加したりして、地域社会との交流の輪が広がっている。隣接の老健施設のデイサービスとも交流しているが、ボランティアの来訪が少ない。「季節ごとの行事の開催で多くの交流の機会を作り、地域活動にも参加したい」との意欲があり、新しくできた多目的ホールの誘いにも応じて、地域社会とのつながりを強めている。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームには、職員間で何度も話し合いを持って作り直した「1、住み慣れた地域の中で一人ひとりの声に耳をかたむけ寄り添っていく。2、その人らしさを失うことなく最後までゆっくり豊かに。」との理念があるが、「地域密着型サービス」としての「地域生活の継続」と「地域との関係の強化」がうたわれていない。	○	苦勞して作り直した理念であると思うが、遺憾ながら「地域密着型サービス」の意義をふまえたものにはなっていないので、次年度に向けて再度の見直しをお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念を作成する話し合いの段階で、職員の思いを取り入れているので、すべての職員がそれを理解し共有している。日常のサービスの提供に当たっては、その理念を活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは地域の長寿会に加入しており、さらに自治会への加入を申し入れている。入居者が長寿会の行事や地域主催の敬老会などに積極的に参加しているし、近在の住民が法人主催の合同夏祭に参加している。広報紙『蔵王ユートピア便り』を月刊で発行している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義とねらいを職員間で話し合っているのので、すべての職員がそれを理解している。今回の自己評価では、すべての職員に自己評価表を渡して記入してもらい、それを持ち寄って話し合いを持っている。その結果を介護支援専門員がまとめ、さらに職員に還元している。見いだされた課題は、改善計画を立てて実行している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、昨年5月に発足し、以降2か月ごとの開催を目指して来たが、結果的に2回目は本年1月23日に開催せざるを得なかった。3回目は3月27日に予定している。会議は、ホームからの事業の報告や施策の提起と参加者からの意見や要望の聴取により、双方向的に運営している。評価機関や行政監査の評価（監査）結果も報告している。	○	運営推進会議の主旨を理解し、会議は2か月ごとの開催を励行していただきたい。構成員を教員や文化関係者にも拡大することが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場とは運営推進会議以外に連携はないが、「町と協力して、町民に向けた介護教室の開催、グループホームの役割などの紹介、町との協働による取り組みなどを話す場を設けていきたい」との意欲を持っている。町からの事業の受け入れはないが、この6月には中学生の職場体験学習を受け入れることにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来訪したときには声をかけ、必ず入居者の状況を伝えるとともに、入居者のことについて話し合っている。また、毎月1回は広報紙『蔵王ユートピア便り』を同封した手紙をおくり、入居者の状況を伝え、意見や要望を聞いている。入居者の金銭管理については、家族と取り決め、毎月1回は書面で収支状況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や苦情を手紙や来訪時などに聞き、それを運営推進会議で報告して原因や要因を探り、意見を交換してサービスの質の向上に活かしている。ホームには意見箱を置いている。隣接の老健施設、運営推進会議、国保連などでも苦情相談を受付けることを文書や口頭で説明している。第三者委員は運営推進会議で要請することになっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者と職員のなじみの関係を重視して、法人本部には職員の異動を最小限に抑えるように求めているが、本年度は3人の交替があった。新任者のうち二人は隣接の老健施設からの配置換えで、すでに入居者とは顔なじみであったが、他の一人は先任職員が付き添いながら、入居者との信頼関係を築いている。	○	他のホームに比べて、1年間に8分の3の職員の交替は多すぎると思われる。入居者の病的特性にかんがみ、さらには入居者と職員のなじみの関係を重視して、職員の異動を最小限に抑えるように重ねて努力されたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には日常的に学ぶことを推奨し、すべての職員が公平に研修会などに参加できる機会を設けている。しかし、人手不足のためにこの1年間に実際に外部研修に参加したのは、管理者(実践リーダー研修)と介護計画作成担当の二人だけで、職員全体に研修の場が広がっていない。職員の意見や提案を聞く機会も少なくなっている。	○	この4月から二人の職員が増配置されることでもあり、職員の技能向上のために、計画的に外部研修などに参加していただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームは、NPO県グループホーム協議会に加入している。同協議会は地区ごとの相互評価や交流研修、県内の実践報告会などを開催しており、その開催案内が送付されている。職員が同業者と交流する機会はたくさんあるので、前記の期待項目を受けて、「今後は職員の技能向上のために、計画的に参加していく」としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になじみながら徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が入居する前に、職員が2、3人で会いに行ったり、ホームに来てもらって、本人が職員や他の入居者やサービスに徐々になじみながら、本格的な入居に移っていきけるように配慮している。また、本人やその家族の言葉をよく聞きとり、十分に話し合っ、適切な時期に入居できるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしなが喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者には、その得意な分野で力を発揮してもらいながら、職員も一緒に取り組み、それにねぎらいと感謝の言葉をかけている。また、職員は入居者から大切な生活の知恵や技、生活文化などを教わっている。入居者と職員のおもな共同作業としては、買い物、食事の準備と後片付け、居室の清掃、クリスマスの屋外イルミネーション作りなどがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、本人が入居する前に、必ず家庭を訪問して実態調査を実施し、本人の思いや暮らし方、希望や意向の把握に努めている。入居後も本人の行動やしぐさ、会話などから新たな「気づき」があり、家族と話し合っ、それも取り入れ、介護に活かしている。また、本人のことをよく知っている家族などを交えて、本人の視点に立っ、支援策を話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合っ、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	実態調査の際に、本人やその家族の思いや意見を聞き、ケア会議には隣接の老健施設の作業療法士、理学療法士及び管理栄養士にも参加を依頼してその意見も取り入れ、すべての職員で話し合っ、介護計画を作成している。また、介護計画には本人が地域社会のなかで、その人らしく暮らし続けるために必要な、具体的な支援策を盛り込んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合っ、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的には3か月に1回(入居者の急変時はもとより、必要がある場合にはその都度)見直し、毎月モニタリングを行なっている。毎月1回は介護計画について、入居者やその家族の意向を聞いている。見直しにあたっては、これまでの計画の遂行状況や効果などの評価を記録し、それをふまえて新しい介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の外出の見守り、通院の介助、機能回復訓練の送迎などを、隣接の老健施設の職員の協力も得ながら、支援している。通院の付き添い介助は、原則として職員が行い、必要な場合には家族にも依頼している。ショートステイは実施していないが、デイサービスは隣接の老健施設で受け入れられる。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームは入居者のかかりつけの医師や医療機関と良好な関係を築き、本人やその家族が希望どおり受診できるように支援している。ホームの介護支援専門員も看護師であり、隣接の老健施設の医師や看護師とはよく連携が取れ、入居者の毎日の健康状態の把握や必要な医療行為が施されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かつて「最期の看取り」を一度経験しているが、それにかかる成文化した指針として確立していない。「家族、看護師、介護支援専門員、職員との話し合いを設け、医師との連携体制を整えて支援できるようにしたい」としている。	○	「最期の看取り」にかかる指針を成文化し、その介護体制の確立に早急に取り組んでいただきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者を尊重して呼び掛け、本人の承諾を得たうえで居室に出入りしている。また、本人が人前で恥ずかしい思いをしないように、目立たない言葉で話しかけ、声の調子も柔らかである。スピーチロック(言語による抑制)は見られないし、入居者が萎縮する場面も見られない。個人の記録やメモなどを人前に放置していない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は入居者の生活習慣に配慮して、起床、入浴、食事、就床などの日課的な行為を、本人なりの速さで行なえるように、柔軟に対応している。入居者の意見や希望を大切に、入居者の自己決定を受け入れて、入居者が主人公になって暮らせるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者の力を活かしながら、買い物、調理、食卓の準備と後片付けを一緒に行なっている。食事には旬のもの、新鮮なもの、入居者の嗜好を取り入れて提供している。入居者と職員が同じ食卓で同じ食事を食べ、和やかな雰囲気、職員がさり気なく支援の手を差し伸べている。代替食や介護食、医療食も提供している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員は入居者のこれまでの生活習慣や好みを聞いて、その人に合った入浴が毎日でもできるように、見守りをしながらゆっくり入れるように支援している。入浴を嫌がる人に対しては、声かけを工夫して、入浴できるように促している。隣接の老健施設での温泉入浴も、週に2、3日は楽しんでいる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員はそれぞれの入居者が、自分の楽しみごとを持てるように、あるいは気晴らしの機会を作れるように、入居者の生活習慣、希望、持っている力、発揮したい力をふまえて手助けしている。入居者は菓子作り、干し柿作り、漬物作りに参加し、季節ごとの行事では、紙のひな人形作り、七夕の飾り作り、クリスマスの屋外イルミネーション作りを楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は入居者が、なじみの店や場所に出かけられるように、歩行に困難がある場合には車や車いすを利用して、戸外へ出られるように、積極的に支援している(老健施設と共用の車いす積載車もある)。冬期以外には毎月1回の外出日を設けていたが、いまは町役場近くの多目的ホールで催し物があるので、冬期の外出も可能になっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室や玄関や門扉にかぎを掛けていない。職員はそれぞれの入居者の外出の癖や傾向をつかんで対応している。隣接の老健施設の職員の協力も得られるし、近在の方々にも協力を求め、見守りや声かけ、ホームへの連絡を要請している。チャイムはあるが、入居者を監視してしまうようなことはしていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策にかかるマニュアルを作成し、職員に周知徹底している。避難訓練(夜間想定も含む)は、毎年4回行なっていたが、今年は1回しか行っていない。直通電話により隣接の老健施設の職員が掛け付ける体制をとっている。非常用食糧と飲料水を備蓄しているが、職員の非常呼集体制を確立していない。非常口の設置に取り組んでいる。	○	近在の住民の協力と参加を得て、毎年2回は避難訓練(夜間想定を含む)を実施していただきたい。非常口の設置、非常用備品の確保、職員の非常呼集体制の確立などに真剣に取り組んでいただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事には入居者のし好を取り入れ、栄養バランスや身体状況にも配慮して提供している。入居者の食事と水分の摂取量を記録し、体重を毎月測定している。味付けは薄目で、酢、レモン、香辛料などを工夫し、素材を楽しめるように配慮している。隣接の老健施設の栄養管理士に毎週献立表の点検を受け、指導や助言をもらっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前のベランダにプランターやベンチを置き、季節の草花を楽しみながらくつろげるようにしている。屋内の共用空間を使いやすく造作し、なじみのものや使いやすいもの、季節が感じられるもの(草花や行事飾りなど)を置いている。食堂に和風の小上り座敷(こたつ付き)、廊下にソファ、テラスや玄関にベンチを置いている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には、本人の使い慣れたものを持ってきてくれるように働きかけ、それぞれの入居者が、テーブル、いす、机、仏壇、位牌、テレビ、こたつ、冷蔵庫、時計などを持ち込み、自分に適した居心地のよい居室(11.2㎡)を作っている。ホームからは、ベッド、寝具、照明器具、押し入れ、床暖房、畳などを提供している。		